

聖書日課 『からし種』 2023.8.20—8.27

<p>8月20日 (日)</p> <p>Ⅱ 歴代 25章</p>	<p>「王よ、イスラエルの軍隊を同行させてはなりません…神には力があって、助けることも、挫くこともおできになります」(7—8節)。ダビデの子孫である王たちまでも軍事力に頼り始め、油注がれた王が謀反人に殺害されるようになった。かくも荒廃した世にあっても「神にできないことは何一つない」(ルカ1:37)の信仰をもって王の前に出た神の人に希望を見る。</p>
<p>21日 (月)</p> <p>Ⅱ 歴代 26章</p>	<p>「祭司アザルヤは主の勇敢な祭司八十人と共に…ウジヤ王の前に立ちはだかつて言った。『ウジヤよ、あなたは主に香をたくことができない』」(17～18節)。旧約時代に主に香をたくのは榮譽に見えても、実は人々の罪の赦しを請い願う真剣な務めだった。王を制止するアザルヤたち祭司は必死であったろう。新約の今、罪の赦しを主イエスに心から委ねる。</p>
<p>22日 (火)</p> <p>Ⅱ 歴代 27章</p>	<p>「彼は、父ウジヤが行ったように、主の目にかなう正しいことをことごとく行った。ただ主の神殿に入ることはしなかった」(2節)。ヨタムは父ウジヤが後年思い上がったゆえの悲惨な末路を知っている(26:21)が、主はヨタムを絶望させず、父の良かったところは継承する勇気と、ただ父の失敗は繰り返さない自制心を与え、ダビデの系図を守られたと言えよう。</p>
<p>23日 (水)</p> <p>Ⅱ 歴代 28章</p>	<p>「彼らは捕虜に衣服を着せ、履物を与え、飲食させ、油を注ぎ、弱った者がいればろばに乗せ、彼らをしゅろの町エリコにいるその兄弟たちのもとに送り届けて、サマリアへ帰った」(15節)。主イエスのたとえと重なるサマリア(北イスラエル)の人々の手厚さ。彼らは、ユダに大打撃を与え凱旋した自軍を戒め、捕虜とされたユダの人々の隣人となった。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.8.20-8.27

<p>24日 (木)</p> <p>Ⅱ 歴代 29章</p>	<p>「こうして主の神殿における奉仕が復活した。ヒゼキヤとすべての民は神が民のためにしてくださったことを喜び祝った。この事が速やかに行われたからである」(35-36節)。ヒゼキヤ王とすべての民の素直な喜びに、礼拝奉仕は一部の人々に任せるものではないと知る。一人ひとりが内なる主の神殿の奉仕者であり、主が礼拝を成立させてくださる。</p>
<p>25日 (金)</p> <p>Ⅱ 歴代 30章</p>	<p>「彼らは聖所の清めの規程には従いませんでしたが、神、先祖の神、主を求めようと決意しているのです」(19節)。不慣れな聖所の規程を守れなかった会衆のため、王ヒゼキヤが主に赦しを請う。主の会衆を大切にする理想の王の姿を見る。ならば、御自身を十字架につけるわたしたちの罪の赦しを父なる神に願って下さった主イエスこそ、王の王ではないか。</p>
<p>26日 (土)</p> <p>Ⅱ 歴代 31章</p>	<p>「彼らは忠実に献納物、十分の一の献げ物、および聖別された物をそこ(祭司室)に運び入れた」(12節)。「主の律法のことばに専念する(4節)」祭司とレビ人の糧となるように会衆が主に献げた物を、レビ人自身が「忠実に」分配する仕事ぶりが記される。本章には「忠実」という言葉が3度出てくる。主に「感謝し、賛美しながら(2節)」働くことを言うのだろう。</p>
<p>27日 (日)</p> <p>Ⅱ 歴代 32章</p>	<p>「敵には人の力しかないが、我々には我々の神、主がいて助けとなり、我々のために戦ってくださる」(8節)。他国に連戦連勝中のアッシリア軍が「我らの神にひれ伏せ！」と脅した時、ヒゼキヤは主告白をもって抵抗した。私たちに「ひれ伏せ！」と迫る偽りの神々の声があふれる世界の中で、主の日の今日、十字架の主を告白する賛美を共にささげよう。</p>